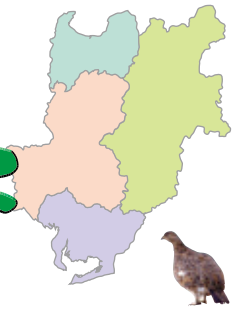




国民の森林・国有林

広報

中部の森林

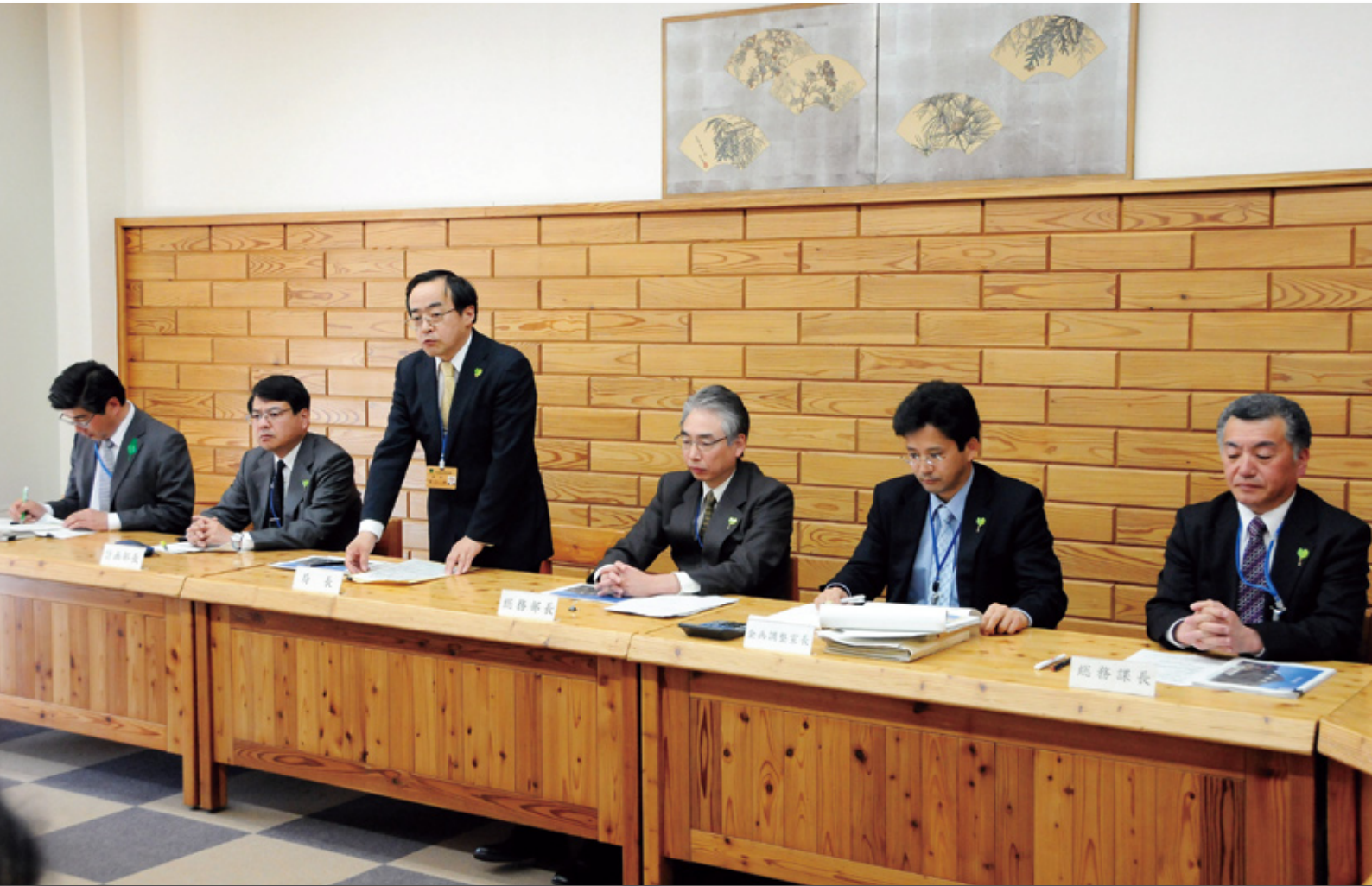


中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



記者発表の様子

「コンクリート社会から木の社会へ」

平成22年度中部森林管理局事業概要を公表

(P2~3に関連記事)

主な項目	○ 平成22年度中部森林管理局事業概要を公表	P2~3
	○ ラジオで国有林をPR	P4
	○ シリーズ現場最前線	P7
	○ 風景紀行	P8

平成二十二年度 中部森林管理局事業概要を公表

「コンクリート社会から木の社会へ」

四月二十六日、平成二十二年度中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行い公表しました。

一 取組方針

中部森林管理局は、公益的機能の維持増進を旨として、平成二十年十二月に策定された「国有林野の管理経営に関する基本計画」や昨年十二月に策定された「森林・林業再生プラン」を踏まえ、開かれた「国民の森林」としての国有林野の管理経営や民有林との連携を推進しているところです。

平成二十二年度については、民有林施策との一層の連携を図りつつ、地球温暖化防止や生物多様性の保全をはじめとする国民のニーズに応えた多様で活力ある

森林の整備や木材の安定供給等に率先して取り組むべく、以下の項目などを中心に事業を実施していきます。

二 公益的機能の持続的発揮

管内の国有林野は、「日本の屋根」と呼ばれる日本アルプスを中心とした脊梁山脈や重要な水源地に広く分布していることから、安全・安心な国土管理の要として、国土保全・水源かん養・地球温暖化の防止等に果たす国有林野の役割や国民の期待等を踏まえ、森林の公益的機能の持続的発揮や地球温暖化の防止に取組みます。

(一) 国土保全や地球温暖化防止等に資する健全な森林づくり

— 森林整備事業等 —

山地災害の防止、水源かん養等の公益的機能の発揮に加え、森林吸収目標千三百万炭素トンの達成に向けて吸収源としてカウントできる森林を効率的かつ確実に増やすため、森林整備事業等による間伐等の着実な実施に努めるとともに、長伐期化、天然力を活用した針広混交林化など、多様で健全な森林づくりを推進します。

(二) 森林整備や木材利用を進めるための路網の整備 — 林道事業 —



列状間伐の実施 (飛騨署)



スギの間伐材を利用した路面基礎部の土留工 (木曽署)



溪流の保全に配慮した工法 (中信署)

間伐などの森林整備に必要な路網を計画的に整備するとともに、間伐材の搬出・利用を図る利用間伐の拡大に積極的に取り組むため、開設コストの低い作業道などを主体とした路網の整備を加速化します。

(三) 国民の安全・安心の確保のための国土保全対策 — 治山事業 —

荒廃地の早期復旧等を図るため、間伐等による災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、集中豪雨や地震等により発生した崩壊地等を治山施設の整備に

より早期に復旧し、下流への被害を未然に防止します。

三 生物多様性の保全

貴重な森林生態系等を国民共通の財産として適切に保全・管理するため、保護林など優れた自然環境を有する森林の保全・管理、希少な野生動物植物種の保護管理、野生鳥獣との共存に向けた取組や森林環境教育を推進します。



高山植物を保護する防護柵の設置 (南信署)

四 木材の安定供給及び利用の推進

木材の効率的な利用及び安定供給のため



間伐材の安定的な供給 (南木曽支署)



高性能林業機械の活用（東信署）

め、間伐材の搬出・利用を図る利用間伐の推進や需要動向等に応じた計画的な生産・販売の推進、公共施設やバイオマス等としての木材利用の推進に取組みます。

五 地域の森林・林業を支える取組

各署等の素材生産請負事業地における現地検討会等により、地形・林況等にに応じて路網と高性能林業機械等を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・定着に取組むとともに、技術指導等による林業事業者の育成や、民有林と国有林が混在している地域等においてスケールメリットを活かしたより効率的な森林整備を進めるため、地方公共団体等との森林整備の推進等に関する協定の締結や、これに基づく民有林・国有林が一体となった「森林共同施業団地」の設定等に積極的に取組みます。

八 透明性の高い形で国有林野の管理経営の推進

森林計画の策定における地域に根ざし



人材育成等の協定の締結（信州大学農学部）

六 地域振興等への寄与

自然休養林等のレクリエーションの森について、地元協議会との連携・協力やサポーター制度の導入等による民間活力の活用により施設整備等に取組むとともに、これらを広く国民に保健休養の場として提供し、住民の福祉の向上や観光等、地域の振興に貢献します。

七 技術の向上や人材の育成

森林の公益的機能の持続的発揮を図るため、地域の特色やニーズを踏まえた森林施業法や路網作設法等の技術の開発・普及に計画的に取組むとともに、大学等とも連携して森林施業技術等の開発・普及や人材育成のための研修・技術検討会等を実施します。

な幅広い情報等の反映や国有林モニター制度等を通じた国有林への要請等の反映など、国民の皆さんとの双方向での情報等の受発信により、透明性の高い形で国有林野の管理経営を進めます。

第二回森林管理署等会議を開催

平成二十二年度

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/>

【企画調整室】五月十二日～十三日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長会議（四月二十二～二十三日開催）の内容を踏まえた指示が伝達される



地域住民との懇談会の開催（尾張西三河森林計画区：瀬戸市・愛知所）



城土局長の訓辞

な、平成二十二年度中部森林管理局事業概要につきましては、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。

URL
<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/>

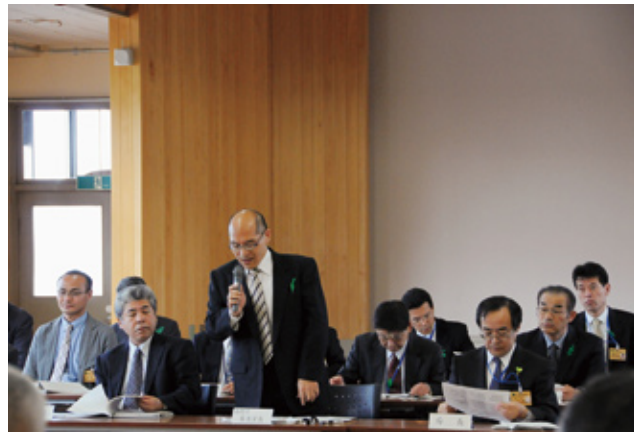
全体会議では、城土局長及び竹林次長から

①国有林野事業改革②予算編成・執行改革と収支差管理③森林・林業再生プラン④国産材の安定供給及び利用推進⑤吸収源対策等の森林整備の推進⑥綱紀の粛正・風通しの良い職場環境⑦生物多様性の保全への取組推進⑧野生鳥獣害対策⑨民有林との連携⑩山地災害発生時の民有林との連携⑪労働安全確保等についての訓辞が行われた。また、各部長から具体的業務運営等について指示が行われた。

引き続き林野庁石井監査室長から、

「森林・林業再生プランの具体化及び国有林野事業の一般会計化について」の現状、取り巻く情勢について説明がされた。

また、今回の署長会議に合わせ、林野庁監査室から「監査指摘事項の再発防止に係る指導」等も実施され、短時間の中で中身の濃い会議となった。



林野庁石井監査室長の説明

**ラジオ番組で
国有林をPR**

「南信署」四月十三日、長野市のFMゼンこうじのスタジオでラジオ番組「みどりとみずと」の収録に井元森林ふれあい係長が出演し、国有林のPRを行いまし

た。

「みどりとみずと」は長野県環境保全協会の提供により、長野県の企業・団体・個人の優れた環境保全活動等を広く県民に紹介している番組で、三月に信州大学農学部で一般者を対象に開催された「森林に学ぶネットワーク」において、二十年度業務研究発表会のテーマ「地域のニーズを引き出す取り組み」『郷学官』共同企画による森林林業の普及」を発表した際に、会場で聞いていたFMゼンこうじの方から「この取組みを、善光寺平に住む皆さんにも知っていただきたい」とのオファーにより、今回の収録となったものです。

収録内容は、大学生と森林官が共同し地区の森林ガイドとして活動するまでの経緯を中心に紹介しました。

また、森林管理署や森林官の業務等に



スタジオの収録風景 (左：森林ふれあい係長)

ついてもインタビューを受けました。

今回の収録内容は、四月十七日、四月二十四日、五月一日の十時四十五分から十五分程度放送されました。

一般の方々にとって国有林はまだまだ身近な存在とは言いがたいところですが、引き続き国民視点に立った業務遂行と積極的なPR活動の展開等を通じ、地域からの信頼、国民の幅広い理解と支援を得るよう努めていきたいと考えています。

林建協働に対する技術指導

「森林技術センター」平成二十二年三月十八日、森林技術センター職員が下呂市内の民有林で完成した三路線の作業道について技術評価を行いました。これは、林業と建設業の連携による地域経済の活性化を図るため設立された「ひだ林業・建設業森づくり協議会下呂部会」から、作業道作設現地検討会の講師派遣の要請に基づき指導したもので、この度、完成した三路線の作業道について技術評価を行ったものです。

当日は、新規林業参入建設業者六社と森林組合が参加し、切り土高の抑制、路面水の分散、洗越しの作設方法等作業道施工上の留意点やスイッチカーブの作設方法について技術指導を行いました。

参加者は、地形、土質等に応じた作業道の作設方法等について熱心にメモを取

る等、新規林業参入に強い意欲を燃やしていました。

森林技術センターでは、新規林業参入者を対象にこれまで講習会（座学・実技）や現地検討会の開催等、併せて五回実施してきており、延べ百十名の民有林技術者を育成してきたところです。



完成した民有林作業道において評価



粘土を使ってスイッチカーブの作設方法を説明